



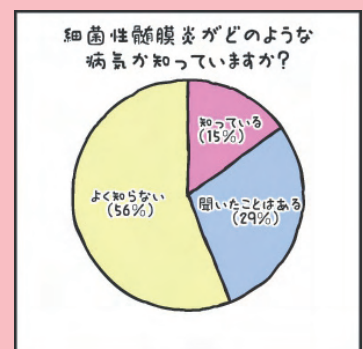
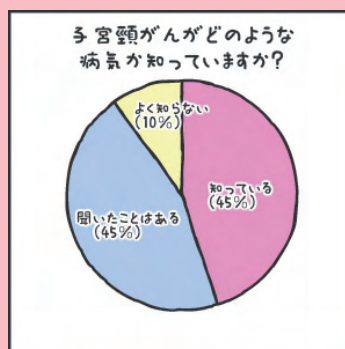
家族の笑顔を守る

ワクチン

4月1日から小城市では、2つの予防接種に対する助成が始まりました。
一つは子どもを「髄膜炎^{ずいまくえん}」から守るワクチン。
もう一つは女性を「子宮頸がん^{けい}」から守る予防ワクチン。
どんな病気で、どんなワクチンなのかを調べてみました。

認知度アンケート

広報担当が市内の育児サークル（アイルで開催分）に参加する保護者の方にアンケートを実施しました。回答者40人。



子どもを「髄膜炎」から守る

「髄膜炎」という病気をご存じですか？認知度の低い病気ですが、かかると怖い病気です。子どもたちを守るため、市は県内初の予防接種の助成に踏み出しました。

室 英理子先生

小城市民病院 小児科非常勤医師

子どもの変化に気づき、守れるのは親だけ。



―髄膜炎の原因は何ですか？

原因はいろいろありますが、ヒブ（Hib）（インフルエンザ菌b型）という細菌が多割を占めています。そのため、予防接種の名前も「ヒブワクチン」といいます。

―予防接種はどんな病気に対するものですか？

主に「細菌性髄膜炎」を予防するワクチンです。この病気は、初期では風邪に似ている分かりますが、重症化すると重い後遺症を残す場合があります。発生率が低いこともあり、病気のことやワクチンなことなど、あまり知られていないようです。

―インフルエンザという季節性なのでしょくか？

いいえ。髄膜炎はインフルエンザ菌、季節性のもので「インフルエンザウイルス」なので別物です。昨年、新型インフルエンザが流行した時には関係ありません。

―どんな子どもがかかりやすいのですか？

5歳未満の乳幼児ですね。特に生後2か月から2歳未満児や免疫力が落ちている時にかかりやすいです。菌自体は、どこにもある菌なので予防はワクチンのみです。

―保護者にできることは何でしょうか？

お子さんの様子が少しでもおかしいと思ったらすぐ受診してください。特に、生後3か月くらいまではかかりつけ医にすぐ、相談することをお勧めします。

また、予防ワクチンは年齢に合わせ、1〜4回の接種が必要となります。他の予防接種もあり、大変だと思えますが、最近、薬が効かない菌も増えていきます。かかる前にぜひ予防をお願いします。そして、このワクチンは供給量が少ないため、早目のご予約をよろしく願います。

予防ワクチン接種 Q & A

Q この予防ワクチンを接種した効果は？

A 接種を受けた人のほぼ100%に免疫ができて、高い予防効果が認められています。世界各国でも広く接種されています。

Q 副反応はあるのでしょうか？

A 注射したところが赤くなったり、腫れることはあるようですが、ほとんどないようです。

Q ワクチン接種はすぐ受けられるのですか？

A 現在、日本全体で供給体制が整っていないため、すぐ受けられるとは限りません。接種を希望される場合は、早目のご予約をお勧めします。

けい 女性の約80%感染!?子宮頸がん

近年、20代の発症が増加している子宮頸がん。市では、九州初の予防ワクチン接種助成を決定しました。

まつお
松尾 憲人 先生
のりひと

小城市民病院 産婦人科医師



**子宮頸がんはワクチンで
予防できる唯一のがんです。**

「子宮頸がんはどんな人がかかりやすいんですか？」

原因のほぼ100%はヒトパピローマウイルスへの感染なんです。これは性交渉によって感染すると考えられています。女性の約80%が一生に一度は感染していると考えられているほどありふれた菌なのです。全ての人が発症するわけではありませんが、日本では年間約15、000人の方が発症しています。

「誰でもかかる可能性があるんですね。」

そうですね。更に、初期の段階では自覚症状もないのです。そのため、気付いた時にはがんが進行している場合が多く、治療方法としては手術となります。初期であればその

後の妊娠も可能ですが場合にによっては子宮の全摘出を行うこととなります。性交渉の低年齢化により、出産を控えた10代後半〜20代前半の若い女性に増えているのが気になります。

「予防ワクチン接種について教えてください。」

このワクチンはがんそのものを予防できる画期的なものです。ヒトパピローマウイルスの60%を予防できます。ワクチンは3回の接種が必要です。3回で抗体ができ、長期間ウイルスから守ってくれます。現在、世界の100か国以上で使われています。

「今回、市のワクチン接種助成に対してどう思われますか？」

昨年末にワクチンが承認され、今回、助成に踏み切ったスピーディな対応は大変素晴らしいと思います。

「ワクチン接種の他に何か予防策はありますか？」

ワクチンを接種しても子宮頸がんになる可能性はありますので、毎年の定期検診を合わせてお勧めします。

私は産婦人科医として、このワクチンを待望していました。しかし、一般的にはまだ認知度が低く、金額的にも高額なのが現状です。国が公費負担するなどの、後押しがもっと必要だと思います。

今後、このワクチンの認知が広まり、多くの方に接種していただけることを強く願います。

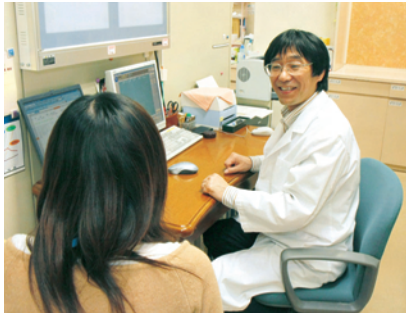
予防ワクチン接種Q&A

Q このワクチンは、何歳から受けられますか？

A 10歳以上から接種可能です。最近では、性交渉の低年齢化により10代後半から子宮頸がんにかかる方もいらっしゃいます。10代は検診を受けることもほとんどないため、症状に気づかず、病気が進行しやすいので、特に、若い方の接種をお勧めします。

Q 助成の対象はなぜ中学2年生なのですか？

A このワクチンは、若い人ほど効果が高いこと。また、妊娠・出産を控えた、若い世代に予防を、ということと、他の予防接種と重複しないということとで中学2年生を対象にしました。産婦人科学会でもこの年代を推奨しています。



助成を受けるために

注意事項

- ・法で受けることを定められている定期接種ではなく、任意の予防接種のため医療機関によって費用が異なります。
- ・対象は市内在住の方に限ります。
- ・接種を受けたことを母子健康手帳に記入してください。

ヒブワクチン接種

●ワクチンの接種について

- ・接種の対象：生後2か月～5歳未満
- ・費用（1回の接種につき）：7,000円前後
- ・接種のスケジュール

接種回数	生後2か月～7か月未満	生後7か月～11か月	生後1歳～4歳
1回目	生後2か月～7か月未満	生後7か月～11か月	生後1歳～4歳
2回目	4～8週間後	4～8週間後	×
3回目	4～8週間後	1年後	×
4回目	1年後	×	×
合計	4回	3回	1回

●助成の対象について

市内在住の生後2か月～5歳未満の乳幼児

- ・助成額（1回の接種につき）：3,000円

・市内指定医療機関の場合

- ①指定医療機関に予約をする。
- ②医療機関へ行き接種。
持母子健康手帳・助成金を除く接種費用

・市外の医療機関の場合

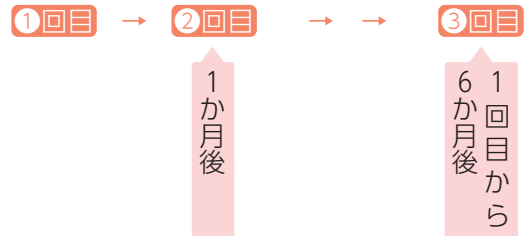
- ①指定以外の医療機関に予約する。
- ②指定以外の医療機関で接種。
持母子健康手帳・接種費用全額
- ③健康増進課（三日月庁舎）へ行く。
持領収書・母子健康手帳・通帳・印鑑
- ④後日、健康増進課から助成額が振込まれます。

※接種を希望される方は必ず予約をお願いします。
（ワクチンが不足しており、希望の日に接種できない場合があります。）

子宮頸がん予防ワクチン接種

●ワクチンの接種について

- ・対象年齢：10歳以上の女性
（ワクチンの効果は性交渉経験済の女性でもあります）
- ・費用
（1回の接種につき）：15,000円～17,000円前後
- ・接種のスケジュール



●助成の対象について

市内在住の中学2・3年生の女子

（中学3年生を対象にするのは平成22年度に限り
ます。又、年度内の助成となりますので1回目の
接種を平成22年9月末までに受けてください）

- ・助成額（1回の接種につき）：7,500円

・指定医療機関のみ

- ①健康増進課（三日月庁舎）へ申請に行く。
持母子健康手帳・印鑑
- ②助成券・予診票を受取り、接種の趣旨の説明を受ける。
- ③市内の指定された医療機関に予約をする。
- ④医療機関へ行き接種。
持母子健康手帳・助成券・助成金を除く接種費用・予診票

※市では20歳以上の方に子宮頸がん検診助成を行っています。予防のために、毎年の検診を受診しましょう。

問合せ 健康増進課 母子保健係
担当 島ノ江・南里 ☎73-8822



市内指定医療機関

ご注意

子宮頸がん予防ワクチンは市内指定医療機関での接種のみ助成が受けられます。

	医療機関名	電話番号	H i b	子宮頸がん
小城町	石井外科医院	73-3641	×	○
	伊東医院	73-3235	○	○
	豊田医院	72-2031	○	○
	やなぎしまこども医院	73-3666	○	○
	高橋内科	72-1100	×	○
	酒井内科クリニック	71-1377	○	×
	野田好生医院	72-3232	○	○
	さかた診療所	72-1170	○	○
	ひらまつレディースクリニック	72-8400	×	○
	小城市民病院	73-2161	○	○
三日月町	江口病院	73-3083	○	○
	古賀医院	73-2067	○	○
	ひろおか内科・神経内科クリニック	73-8022	×	○
	坂田クリニック	72-1151	○	○
	いなだ小児科・アレルギー科	72-7800	○	○
	まなべ消化器内科クリニック	72-3636	○	○
牛津町	しまうちクリニック	66-6036	○	○
	樋口医院	66-4838	○	○
	村岡内科医院	66-3750	○	○
	おおしまクリニック	66-0314	×	○
芦刈町	徳富医院	66-1547	○	○

「予防」で守るもの。それは、家族の幸せ。

「自分は大丈夫…」

「我が家には関係ない…」

そう思って、せっかくの検診も受けずにいませんか。

病気の原因は身近なところにあるものです。

「予防ができるものは予防しておく。その方が効果的」と室先生。

病気は本人だけではなく、家族にとっても辛いものです。

あなたとあなたの大切な人の命を守るため、この機会に「予防」について考えてみてください。

今回の2種の予防接種は任意のものなので、高額のように感じますが、万が一病気になってしまったら…

治療費や身体的・精神的負担を考えると、予防した方が賢いと思いませんか。

「二人でも多くの方の生命と、ご家族の笑顔を守りたい」それが市の願いです。